

主体的に学び続ける子どもの育成

副題

～ICT活用と学校・家庭・地域・行政の4者協定による「自分の命は自分で守る」防災アクティブ・ラーニングを通して～

キーワード

自分の命は自分で守る、学校・家庭・地域・行政の4者協定による防災教育、ICT活用、アクティブ・ラーニング

学校名

大分県臼杵市立臼杵小学校

所在地

〒875-0041
大分県臼杵市大字臼杵65番地

ホームページ
アドレス

<http://syoun.oita-ed.jp/usuki/usuki/>

1. 研究の背景

本校は、眼前に臼杵湾が広がる場所に位置し、東日本大震災で被害を受けた宮城県石巻市に立地条件が似ていると言われている。震災の翌年(H24)、海岸部にある本校の高台への移転統合案が行政より提案された。話し合い後の保護者投票で高台移転反対を決議し、行政が提案を撤回している。以来「子どもの命は、大人たちで守る」ことを決め、南海トラフ地震を想定した防災教育に学校・家庭・地域・行政の4者が協定を結び「防災ノート作成」「年間7回の避難訓練」などの防災活動を行っている。学校評価によると児童の防災意識は高い。しかし「避難訓練がマンネリ化し、真剣に避難しない児童の姿が見られるようになった。」「せっかく作った防災ノートが授業で効果的に活用されていない。」などの反省が教職員から、「なぜ防災教育にここまで取り組むのか。」という声が、移転問題を知らない保護者から聞かれるようになった。そこで、これまで大人主導で受け身的であった児童の防災学習を主体的・対話的なアクティブ・ラーニングに変えるとともに、4者協定の意義を再確認する必要があると考えている。

2. 研究の目的

以上のことから、本研究では、ICT活用と学校・家庭・地域・行政の4者協定による防災学習を通して、主体的に学び続け、命の大事さを理解し、「自分の命は自分で守る子ども」をはぐくむ防災アクティブ・ラーニングのあり方を明らかにするとともに、ICTによる情報発信を通して、4者協定の意義を再確認し、学校・家庭・地域・行政の連携による防災教育の活性化を図る。

以下の3点が、本研究の具体的な研究目的・研究内容である。

- (1) ICTを活用した防災アクティブ・ラーニングの授業実践…防災カリキュラムを作成し、ICTを活用して自分の住む地域を探索し、「自分の命は自分で守る」ための主体的・対話的な防災学習を行う。
- (2) ICTを活用した学校・家庭・地域・行政の4者協定による防災教育の活性化…今一度原点に立ち戻り「子どもの命は、大人たちで守る」の精神をつなぐため、ICTを活用して広報・啓発活動を行う。
- (3) 防災コミュニティ・スクールとして幼保小中一体による防災教育の推進…防災コミュニティ・スクールとして、ICTを活用して校区内にある東中学校、カトリック幼稚園・中央保育所と一体となった防災学習をすすめる。

3. 研究の経過

①時期	②取り組み内容	③評価のための記録
5月31日	職員研修「DIG（災害図上訓練）演習」（講師：大分県防災活動支援センター）	・DIGの演習地図（教職員）
7月5日	6年生授業「DIGをして、震災時に地域の安全な場所を考えよう。」	・ワークシート（児童） ・インタビュー調査（6年実践者）
8月4日	小中一体教育ICT合同研修会「避難道CMをつくり教材化しよう。」	・iPad iMovieで作成したCM作品 ・アンケート調査（教職員）
11月15日	6年授業「ゲストティーチャーから防災について学ぼう」（GT：海上保安庁・臼杵市女性防災士会・臼杵市危機管理室）	・ワークシート ・インタビュー調査（6年実践者）
11月29日	研究授業2年生生活科「臼杵小防災安全パトロール隊のみなさんにありがとうの気持ちを伝えよう。」	・ワークシート・写真（児童） ・教師の所感（付箋紙 KJ法） ・インタビュー調査（2年実践者）
1月18日	臼杵小P主催「防災カフェ」 臼杵小防災ショートムービーの紹介	・参加者からの感想・コメント（保護者・地域住民・新聞記者）

4. 代表的な実践

【実践①】「臼杵小防災ショートムービーをつくり、防災の大切さを伝えよう。」

（6学年 総合的な学習の時間 目的1と2に関連する実践）

6年生は、4年生の時に、「臼杵城址公園避難道リーフレット」をつくり、幼稚園児へのガイド活動や市の防災危機管理室への安全な避難道づくりの提案をしている。5年生の時には、臼杵市女性防災士の方から東日本大震災や防災士の活動の話聞き、「命の大切さ」を学んでいる。

しかし、本年度の6年担任は、「確かに、これまでの授業で培った防災に関する知識はある。しかし、主体的に学ぶ態度や命を大切に、相手を思いやる心をもっと育てていかなければならない。」と考え、本年度の防災学習を次のように構想した。

【表1 6年生の防災学習構想】

学期	学習活動
1学期	1、DIG(災害図上訓練)をして、南海トラフ地震の津波が発生した時の避難場所を考えよう。
2学期	2、防災の専門家から学ぼう。 ① 海上保安庁「津波の起こるメカニズム～南海トラフ地震を想定して～」 ② 臼杵市女性防災士会「ダンボールトイレを作ろう。」【写真1】 ③ 臼杵市危機管理室「臼杵城址公園 防災倉庫の備蓄品を知ろう。」 3、防災ショートムービーをつくり、専門家から学んだことをみんなに伝えよう。
3学期	4、防災ショートムービー完成発表会を開こう。(児童相互・新聞記者・教職員参加) 5、防災ショートムービーを「防災カフェ」「臼杵ケーブルテレビ」で発信し、大切さを伝えよう。

まず、1学期にDIG（災害図上訓練）を通して、6年生は、もし南海トラフ地震が起きたら、自分たちの

住んでいる地域のほとんどが津波で水没することを知り、防災が、本当に切実な問題であることを実感した。

次に、2学期に防災の専門家に直接出会い、「津波のメカニズム」「ダンボールトイレの作り方」「臼杵公園防災倉庫の中身」について学んだ。体験学習を通して、防災のために自分たちにできることを考えることができた。

そして、これまで授業で iPad の iMovie を使って動画作成をしていた学習と、「自分たちが学んだ防災のことを全校のみんなや家族、地域みなさんに伝えたい。」という意欲が一つとなって、「iPad で防災ショートムービーをつくり、発表しよう。」という学習課題が生まれた。

6年担任は、「児童は、グループで切磋琢磨して、相手に分かる動画をつくろうと自ら考え、修正を繰り返していた。友だちや保護者・地域の方との対話を通して、思いやりの心が育ったと感じている。」と ICT の効果を話した。



写真1 上 ダンボールトイレ作り(女性防災士会)
下 防災ショートムービー
体験を元に作った「ダンボールトイレの作り方について」

【実践②】「臼杵小防災安全パトロール隊のみなさんに、ありがとうの気持ちを伝えよう。」

(2学年 生活科「(8)生活や出来事の流れ」項目 目的1と2に関連する実践)

本年度、学校・家庭・地域・行政の4者協定による「子どもの命は、大人たちで守る」の精神をつなぐため、地域の防災・防犯を目的に区長さんや児童・民生委員、少年補導員の有志の皆さんによる「臼杵小防災安全パトロール隊」が結成された。パトロール隊は、防犯ベストを着て、早朝の挨拶・交通指導や放課後の見守り等を行い、津波などの災害時に備える活動をしている。

2年生が、生活科で「臼杵小防災安全パトロール隊のみなさんにありがとうの気持ちを伝えよう。」の授業を行った。目的は、先生や保護者と違い、自分たちと直接には関係のない地域の「安全パトロール隊」の人々が、わざわざ時間を割いて、自分たちのために活動をする理由を知り、自分たちにもできることはないかを考え、発信することである。

【学習指導案 本時案(1/9)】

(1) 題目 安全パトロール隊のみなさんが、あいさつ運動をしているわけを考えよう。

(2) 本時の目標

安全パトロール隊が、あいさつ運動をしているわけを、活動している様子の動画を見たり、一人ひとりの具体的なエピソードを知ったりすることを通して、考えることができる。

(3) ICT 活用について

導入の安全パトロール隊のみなさんとの出会いの場面において、iPad の写真・カメラ機能と大型モニターを使い、パトロール隊の見守り活動の動画や一人ひとりの顔写真を映し出すことにより、あたかも本物が実際に教室に来てもらったかのような出会いの場を演出することができるであろう。

(4) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価
1. 本時の課題をつかむ。	25	<p>○全国で事故やけがをする人は、何才が多いかを知らせる。</p> <p>○見守っている人には、どんな人がいるのか出し合わせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・臼杵小の保護者 ・警察の人 ・先生たち ・地域の人 など </div> <p>○安全パトロール隊のみなさんの「挨拶運動」の様子を iPad 動画で知らせる。(ICT 活用)</p> <p>○iPad で撮ったそれぞれの方の顔写真と家が近くの児童の名前や具体的なエピソードを知らせ、感想を出させる。(ICT 活用) *【写真2】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される児童の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遠くから来てくれて、すごいな。」 ・「こんなにたくさんの方がいるんだ。」 ・「どうして、あいさつをしてくれるのかな。」 </div> <p>○見守ってくれている人をおさえ、パトロール隊のみなさんは、みんなのことを知っている保護者でも先生でもなく、仕事をしている警察の人でもないことを知らせ、わざわざ挨拶運動をしてくれているのは、どうしてかなと投げかけ、課題を提示する。</p>	 <p>写真2 ICTを使ったパトロールとの出会いの場</p>
<p>【課題】安全パトロールたいのみなさんが、わざわざあいさつうんどうをしてくれるのはどうしてかな。</p>			
2. 自分の考えを書き、全体で交流する。	10	<p>○ワークシートに、自分の考えを書かせる。</p> <p>○考えを広げるため、ペアで交流させる。</p> <p>○考えが持てない子どもには、1活のエピソードを振り返らせる。</p> <p>○全体で考えを出させ、自分の考えに挙手させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちから元気をもらうから ・事故とかけがいをしないように ・あいさつをされるとうれしいから </div>	<p>・安全パトロール隊の方々に興味を持ち、考えたり交流したりできる。</p> <p>(ワークシート、発言)</p>
3. まとめをする。	10	<p>○「安全パトロール隊のみなさんの気持ちは、安全パトロール隊の人にしか分からないので、どれが本当か分からないなあ、困ったなあ」と投げかけ、「聞いてみたい」という意欲につなげる。</p>	
<p>【まとめ】あいさつうんどうをしているのは、ぼくたちから元気をもらうし、あいさつを返されたらうれしいから。</p>			
		<p>○挙手した人数の多いもので、まとめをする。</p> <p>○感想を書き、何人かに発表させる。</p> <p>○次時は、聞きたいことをみんなで考えることを伝える。</p>	

【児童の感想】

テレビを見て、ぼくの身近にパトロールの人がいてうれしかったです。わざわざ来てくれるわけが「ぼくたちから元気をもらえるから」だったら、ぼくも地域の人の役に立ちたいです。

【実践③】「小中の教職員で臼杵公園への7つの避難道紹介CMを作り教材化し、地域を知ろう。」(小中一体教育 ICT 合同研修会 目的3に関連する実践)

本市では、「小中一体教育」を行っている。臼杵小学校は、隣接する東中学校と一体教育を進めている。海岸部に面する両校の共通の重点目標の一つが「命を守るための防災教育」である。

両校区の、津波発生時の避難場所の一つが、「臼杵城址公園」である。公園に上る避難道は、東西南北に7つあり、避難の際、自分のいる場所から最適な避難道を選び、安全に避難することが大切となる。小学校では、3年前から児童が、幼稚園児に7つの避難道を紹介する避難道ガイドを行っている。

しかし、小中の教職員に聞くと、異動した教職員を中心に「7つの避難道」を知らない者が2割いることが分かった。防災教育を行い、子どもたちの命を守るためには、「教師が地域を知ることが大切である。」と考へ、夏休みに大分県教育委員会の指導主事を招聘して臼杵公園への避難道を探索する「小中一体教育合同研修」を行った。ここで、ICTを活用し、研修もアクティブ・ラーニングにしたいと考へ、「臼杵公園への7つの避難道CMをつくって教材化しよう。」という研修課題を設定した。研修の流れは以下の通りである。

【表2 小中一体教育東ブロック ICT 合同研修会「臼杵公園への7つの避難道CM作成」の流れ】

1、東ブロックの防災の取組と、避難場所「臼杵城址公園」への7つの避難道を確認する。

津波が起きた際に、自分のいる場所から最適な避難道を選び、臼杵公園に避難する。そのためには、指導する教職員が、7つの避難道を知っておく必要があることを共通理解する。

課題「臼杵公園への7つの避難道CMをつくって、みんなに避難道の特徴を知らせよう。」

2、7つの避難道グループに分かれ、iPadのiMovieを使いCMをつくる。

- ①指導主事より、iMovieの使い方を学ぶ。
- ②CMの構成を考へ、実際に避難道に行き、撮影を行う。
- ③CM編集を行う。
テロップ、音声ガイド、GarageBandを使ったBGMの挿入
- ④避難道CMの完成

3、発表会「避難道CMで、みんなに避難道の特徴を知らせよう。」

CMを見て、自分の撮影した以外の6つの避難道の特徴を知る。



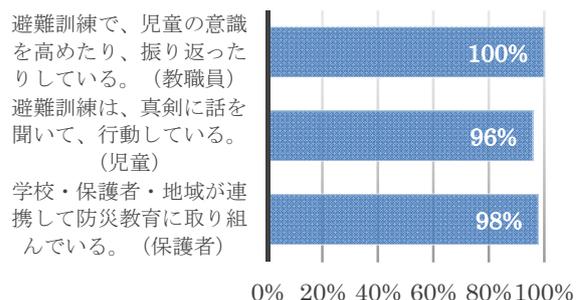
写真3 避難道CM発表会の様子

【参加した初任者教員の感想】

○これまで7つの避難道に実際に行かなければと思っていたが、時間が取れずに行けなかった。このCMづくりで避難道の特徴が分かり指導の幅が広がった。中学校の先生方と一緒に作ったことの意義も大きいと感じている。

図1 学校評価アンケート結果(教職員・児童・保護者)

臼杵小学校評価アンケート (H29.12実施)



5. 研究の成果

平成 29 年 12 月に学校評価アンケート調査を、教職員・児童・保護者を対象に実施した。

図 1 のアンケート結果を見ると、教職員・児童・保護者とも防災に関する質問項目で、肯定的な評価が、「95%以上」となっている。

【児童・保護者・地域住民の声】

○iPad で防災動画を作ったことで、より深く防災について考えることができた。(6 年児童)
○子どもたちの命を守るため保護者ができることをみんなで考えることができた。(保護者)
○避難訓練だけでなく、授業や挨拶、清掃態度を見て、相手を思いやり、命を大事にする児童が増えていることを感じる。(地域住民)

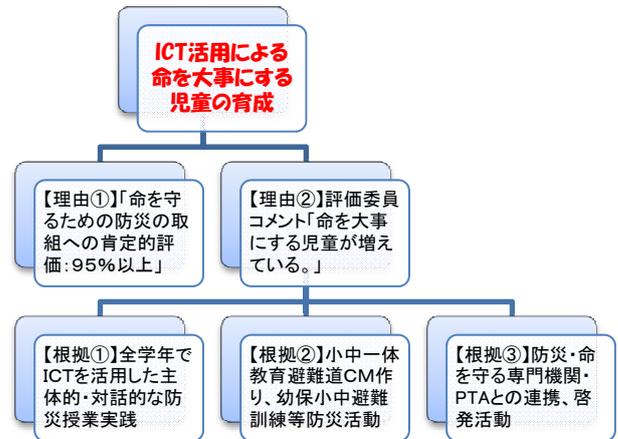


図2 本研究の成果のピラミッド図

本研究の成果を、図 2 にまとめた。これまでの防災教育に ICT を取り入れることで、児童の防災学習が主体的・対話的な深い学びとなった。防災の専門機関を招聘し、様々な防災学習を体験し、保護者等への啓発活動もすることができた。その結果、学校評価で、教職員・児童・保護者・地域が高い評価をしている。このことから「命を大事にする児童の育成」につながったと考える。

6. 今後の課題・展望

我々は、防災教育を通して、「自分と他人の命を大事にする子ども」「いざという時に自ら考え、判断し、行動できる子ども」「友だちや家族、地域の人たちに感謝の気持ちをもち、行動できる思いやりのある子ども」を育てているという目的を見失わず、取組を風化させることなく活動を継続・発展させていくことが、今後の課題である。

展望としては、「防災カリキュラム」の検討・改善を繰り返し、「命を守る大切さ」を系統的に学習していく。その際、今回の研究で明らかになった ICT 活用の可能性を更に広げていきたい。

7. おわりに

本校には卒業生の作家 野上弥生子先生が、開校百周年記念に送ってくれた『一粒の真珠』と言われる手紙がある。手紙の最後に「白杵を東九州の美しい一粒の真珠に仕上げるか、どうかはこれから先の皆さんの責任なのですから。どうかしっかり頼みます。」とある。学校・家庭・地域・行政の 4 者が連携して、防災教育をすすめ、「命を大切にし、考えて行動でき、思いやりのある子ども」を育てることが我々の「責任」であると考え、今後も日々精進したいと考えている。

そのことが、今回の研究を助成して頂いたパナソニック教育財団、白杵市危機管理室、中央地区振興協議会、白杵消防署、白杵市女性防災士会、大分県防災活動支援センター、青少年赤十字大分支部、海上保安庁、大分大学防災・復興デザイン教育研究センター、DMAT（白杵コスモス病院）等の専門機関の皆様の期待に応えることだと考えている。ご協力に感謝申し上げます。

8. 参考文献

・「命を守る教育 3.11 釜石からの教訓」(片田 敏孝著 PHP 出版社 2012 発行)